■成績

1. 成績評価・登録

成績登録は、Campusmate-Jの「成績登録」より行ってください。

前期評価は9月上旬、後期･通年の評価は2月中旬が締め切りとなります。詳細のスケジュールは別途ご連絡いたします。

※本学では卒業再試験（後述）以外の追試験・再試験はありません。入力された評価は最終評価となります。したがって、一度成績評価で不合格（60点未満）になった者に対して、成績登録期間後に試験を実施することや評価の訂正はできませんので、特にご留意ください。

※学生に返却していない試験の答案・レポート等、成績評価の根拠になるものについては、成績評価後6ヶ月間の保管をお願いしております。

2. 成績評価基準

◆評価判定

判 定	評価	素 点	意 味
合格 (単位認定)	S	100～90点	特に優秀な成績
	A	89～80点	優秀な成績
	B	79～70点	普通の成績
	C	69～60点	合格と認められる最低の成績
	N	認定	・本学以外で修得した科目の認定 ・実験や実習等の科目で素点では評価しにくい科目等の認定 対象科目は以下の表の通りです。対象科目以外は N(認定)評価を使用できません。
不合格	F	59～0点	不合格

※「(放棄)」は"休学者のみ"に使用する評価です。在学生に対して「放棄」評価が提出された場合は、すべて「不合格（0点)」で処理させていただきます。

◆新カリキュラム（2019年度以降入学生カリキュラム）N(認定)評価科目・GPA除外科目

学　類	認定科目・GPA除外科目	
人文社会学類	多言語コミュニケーション	
心理学類	—	
子ども学類	基礎実習 保育実習Ⅱ（保育所） 教育実習Ⅰ（幼稚園）	保育実習Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅲ（施設）
学校教育学類	基礎実習（小中支援学校・実践研修） 教育実習（小）B 教育実習（中）A	教育実習（小）A 教育実習（特支） 教育実習（中）B
健康栄養学類	—	
教養教育科目	尚絅学 基盤演習Ⅱ（ライティングを含む） キャリアアップセミナー	基盤演習Ⅰ（情報リテラシーを含む） 健康・スポーツⅡ（講義・実技） キャリアデザインⅡ

◆旧カリキュラム（2018年度以前入学生カリキュラム）N(認定)評価科目・GPA除外科目

学　科	認定科目・GPA除外科目	
表現文化学科	博物館実習Ⅲ	
人間心理学科	基盤演習 ※共通教育科目	
子ども学科	基礎実習Ⅰ 保育実習Ⅰ（保育所・施設） 保育実習Ⅲ（施設） 教育実習Ⅱ（小学校） 教育実習ⅢB（中学校）	基礎実習Ⅱ 保育実習Ⅱ（保育所） 教育実習Ⅰ（幼稚園） 教育実習ⅢA（中学校）
現代社会学科	現代社会論	
環境構想学科	—	
健康栄養学科	—	
共通教育科目	健康・スポーツⅡ（講義・実技）	キャリアアップセミナー

3. GPA 制度

GPA（Grade Point Average）とは、主に欧米の大学で実施されている成績評価指標であり、学生が履修した各授業科目の成績に相当する GP（Grade Point）から、特定の方式によって算出された 1 単位あたりの平均値のことで、大学における学修成果の達成度を測る 1 つの指標として用いられています。本学では学生の学修意欲の向上および適切な学修指導に資するとともに教育の国際化を促進することを目的に導入しています。

◆GPA の活用方法

・成績通知書への記載
・2 年次以降の履修登録単位数の上限設定
・尚絅学院大学入学特待生の継続資格
・尚絅学院大学在学特待生の選考基準
・外国人留学生の給付金減免の選考基準
・成績不振学生に対する学修指導

◆GPA の算出方法（2019 年度入学生まで）

①「S」「A」「B」「C」「F」の 5 段階評価に、次の GP（グレード・ポイント）を付与します。
【S＝4 点　A＝3 点　B＝2 点　C＝1 点　F＝0 点】
②その後、以下の式で GPA を算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{（履修登録単位数×その科目の GP）の合計}}{\text{（履修登録単位数）の合計}}$$

※不合格と評価され、再履修によって合格となった場合の GPA の算出は、不合格時の GP と単位数を除外せず、新たな評価の GP と単位数を加えて算出する。

◆GPA の算出方法（2020 年度入学生より）

GP　＝　（授業科目の成績（素点）－55）／　10

※合格（素点 60 点以上）の授業科目について小数点第 1 位となります。
※不合格（素点 60 点未満）の GP は 0 となります。

素点	GP	評価
100 点	4.5	S
99 点	4.4	
98 点	4.3	
97 点	4.2	
96 点	4.1	
95 点	4.0	
94 点	3.9	
93 点	3.8	
92 点	3.7	
91 点	3.6	
90 点	3.5	
89 点	3.4	A
88 点	3.3	
87 点	3.2	
86 点	3.1	
85 点	3.0	
84 点	2.9	
83 点	2.8	
82 点	2.7	
81 点	2.6	
80 点	2.5	

素点	GP	評価
79 点	2.4	B
78 点	2.3	
77 点	2.2	
76 点	2.1	
75 点	2.0	
74 点	1.9	
73 点	1.8	
72 点	1.7	
71 点	1.6	
70 点	1.5	
69 点	1.4	C
68 点	1.3	
67 点	1.2	
66 点	1.1	
65 点	1.0	
64 点	0.9	
63 点	0.8	
62 点	0.7	
61 点	0.6	
60 点	0.5	
0－59 点	0	F

$$\text{PA} = \frac{\text{（履修登録した授業科目の単位数×その授業科目の GP）の合計}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

※小数点第 3 位以下を四捨五入し、小数点第 2 位まで算出します。
※不合格と評価され、再履修によって合格となった場合は、新たな GP 及び単位数を参入し、以前の評価の GP 及び単位数は算出から除外する。

（計算例）

授業科目名	単位	素点	評価	GP	単位×GP
キリスト教概論Ⅰ	1	80	A	2.5	1×2.5＝2.5
キリスト教概論Ⅱ	1	79	B	2.4	1×2.4＝2.4
尚絅学	1		N	－	※GPA 集計除外
西洋の歴史	2	42	F	0	2×0＝0
法学概論（日本国憲法）	2	92	S	3.7	2×3.7＝7.4
心の科学	2	75	B	2.0	2×2.0＝4.0
基盤演習Ⅰ（情報リテラシーを含む）	2		N	－	※GPA 集計除外
基盤演習Ⅱ（ライティングを含む）	2		N	－	※GPA 集計除外
健康・スポーツⅠ（講義・実技）	1	96	S	4.1	1×4.1＝4.1
キャリアデザインⅠ	2	61	C	0.6	2×0.6＝1.2
合計	11				21.6

GPA ＝ 21.6÷11＝1.963636・・・ ⇒ 1.96

4. 成績評価の適正化の推進

◆概要

本学では、全学カリキュラム委員会において、成績評価の適正化を推進するために、成績評価のガイドラインを以下のように示しています。ガイドラインに基づいた成績評価をお願いいたします。

➤A 評価以上の人数を履修者数の 35%以内とし、
S 評価（特に優れたもの）の人数を履修者の 10%程度まで抑える。
➤特に S 評価割合については徹底する。

◆ガイドラインの対象としない科目

<予め対象外となる科目>
・少人数授業科目(20 人未満)
・優秀な学生等が集中して受講している授業科目（英語習熟度別授業）

<申請により対象外となる科目>
・シラバス入稿時に除外申請を行った科目

◆ガイドラインに示す割合を超えた場合の手続き

厳格に成績を評価した結果、ガイドラインに示す割合を超えた場合には、成績評価提出後に、説明文をご提出ください。説明文のご提出は、優れた授業工夫がなされた結果や他の理由などに関する情報共有のためです。ご協力をお願いいたします。
※制定時の資料を p.46 -48 に記載しています。

<提出方法>
学生ポータルサイト（Campusmate-J）よりご入力ください。
ログイン後、メニューバーの左上にある［Web 申請］
－<S 評価割合ガイドライン>除外申請・超過理由回答
－【成績評価 S 評価割合ガイドライン】超過理由回答（2021 年度）
から必要事項を入力してください。
※時期によっては同画面に授業改善アンケートも表示されます。

<想定される主な理由>
・シラバス遵守（Ex.シラバスに記載した評価基準・割合に沿って厳格に評価した結果、ガイドラインと異なるものになった。）
・学生の特性（Ex.例年と同じ評価基準で行ったが、今年度の受講生は優秀な学生が多かった。）
・授業運営体制（Ex.同科目 2 クラスを担当しており、同じ評価基準で評価したところ、クラス間の差が大きく出た。）

4. 成績評価の適正化の推進

2017 年 12 月（送付）

2018 年 12 月（再掲）

科目担当者　各位

全学カリキュラム委員会

学長　　合 田　隆 史

成績評価のガイドラインについて（依頼）

先生方には日頃から授業運営にご尽力・ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、本学では 2015 年度 FD において成績評価の適正化について意見交換の機会を設けました。その中で、「絶対評価はいい」「相対評価はいい」「また両者を組み合わせた形がいい」という異なる意見がありました。教員の中でも試行錯誤しながらより客観的な評価ができるよう工夫なされた先生もおられるが、大学として何らかのガイドラインをつくらないと認証評価にも問題視されるのではないかと外部評価委員から指摘を受けております。成績「優」の乱発を防ぐために相対評価を導入した大学は増え、成績の分布の web 公開システムが作られた大学も現れた状況です。

本学においてレポート評価のコモンルーブリックが導入されたばかりの段階で、絶対評価があまりなされていない状況の中で相対評価を部分的に導入する方針が、全学カリキュラム委員会で決まりました。

本学の実情に応じて、A 評価以上の人数を履修者数の 35%以内とし、S 評価（特に優れたもの）の人数を履修者の 10%程度まで抑えるというガイドラインを明確に設定することにしました。その根拠について、資料①シミュレーション（図）と②他大学の事例をご参考ください。

特に S 評価割合について徹底したいと考えますが、下記の措置も用意しています。

① 少人数授業(20 人未満)、優秀な学生が集中して受講している授業（英語習熟度別授業）などを対象外とします。

② 担当科目は対象外科目にしたい特別な理由がある場合は事前の申し出を可能とします。
申し出がある場合は、Campusmate-J でのシラバス入稿の際、「教務課への連絡事項※」欄に S 評価割合ガイドランの除外対象としたい理由について入力をお願いします。
※「教務課への連絡事項」は、シラバスを入稿する際に、お気づきの点や連絡事項等などを記載する項目です。（Web 非開示）

③ 厳格に成績を評価した結果、目安を超えた場合説明文をつけて成績評価を提出するようにします。それは優れた授業工夫がなされた結果や他の理由などに関する、情報共有のためです。どうぞご協力をお願い申し上げます。

補足：

ご存知のように到達目標にしたがって評価を行う際、目標設定が高すぎると全員が不合格、目標設定が低すぎると全員が S 評価となります。極端な成績をつけることは，その科目の到達目標の設定そのものに問題がある場合が多い。

したがって、絶対評価を行う場合、到達目標を明確にし，かつその設定の根拠や理由を適切に説明できなければならない（説明責任が生じる）。